

人工知能を用いたヒトの心的感性 イメージ可視化技術

医学系研究科

講師 内藤 智之



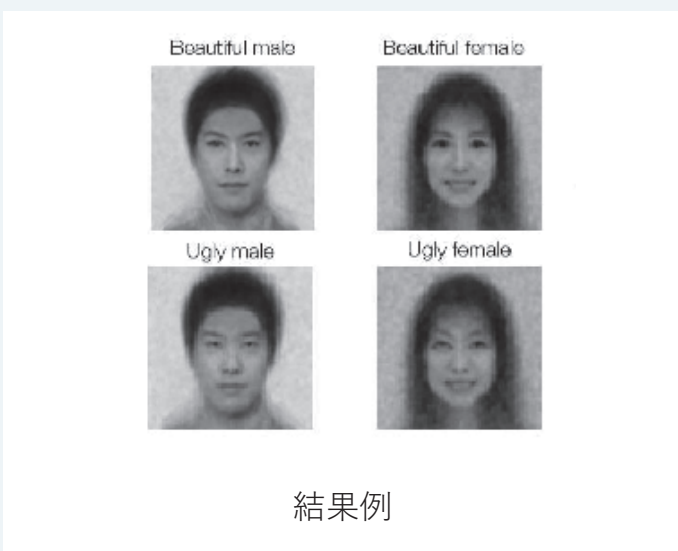
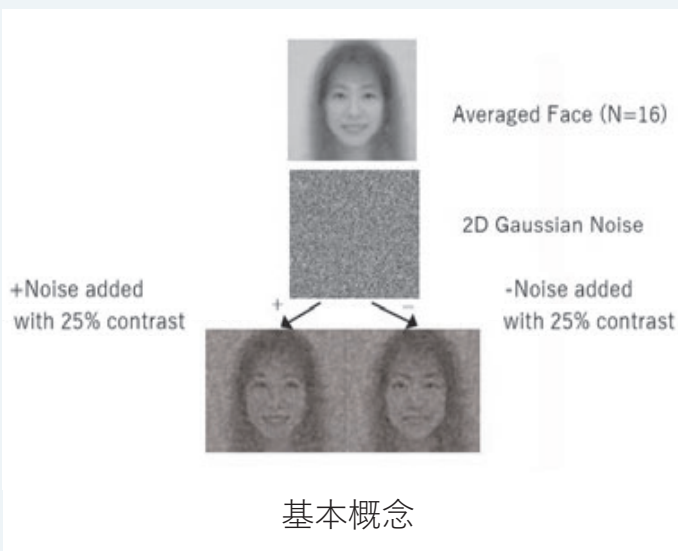
特徴・独自性

本研究は、人工知能を用いてヒトが心的に持つ感性イメージを高品質画像として可視化可能にする技術である。この技術を用いて、個人の感性価値が付与された（例えば「美しい」、「高級感がある」、「購入したい」等）視覚イメージをカテゴリごとに（例えば、自動車や、オートバイ、家屋デザイン、顔等）高品質自然画像として出力する点に特徴がある。

本研究で開発した技術は、ベース画像などの事前情報を必要とせず、フルカラー自然画像を出力することが可能な点に独自性がある。また、ヒトの事前感性判断課題も従来技術に比較して大幅に短縮されており、ネット上で実施することも可能である。各個人の感性は個別 AI として保存され、いつでも読み出すことが可能である。

社会実装と実用化への可能性

本研究成果は AI によるプロダクトデザインの新規作成において実用可能なレベルの検証実験が終了している。また、有名デザイナーやアーティストの感性を AI 内に保存可能であり、本人の代わりに AI がプロダクトデザインを作成することが可能である。また数百から数万規模で感性判断課題を行った被験者の感性を個別に AI として保存しておくことで、同一カテゴリ内の市場調査の代替え評価を繰り返し実施することが可能である。



特許 特許出願済

論文 個人の美イメージの可視化 内藤智之 Imaging Conference Japan 2018 論文集 p55-56.

参考 URL <https://sites.google.com/site/naitotomoyuki/re-vision-japanese>

キーワード 感性、深層学習、美醜判断、可視化、デザイン